



平成30年3月7日

スーパーサイエンスハイスクール（平成27年度指定） の中間評価の結果について

「スーパーサイエンスハイスクール」について、平成27年度指定校の中間評価を実施しましたので、お知らせします。

1. スーパーサイエンスハイスクールの中間評価について

文部科学省では、将来の国際的な科学技術系人材の育成を図るため、科学技術・理科、数学教育に関する研究開発を行う高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（以下「SSH」という）」に指定し、理科、数学等に重点を置いたカリキュラムの開発や大学等との連携による先進的な理数系教育を実施しております。このSSHの中間評価は、指定から三年目の学校について、SSH企画評価会議協力者（外部の有識者）による研究開発の進捗状況等の評価を行い、各学校が研究開発等の内容を見直す機会とし、事業の効果的な実施を図ることを目的とするものです。

2. 中間評価の結果について

平成27年度に新たに指定した25校について、SSH企画評価会議協力者による中間評価を行い、別添のとおり評価結果を取りまとめましたので公表します。

(問い合わせ先)

初等中等教育局教育課程課

課長補佐 鈴木 文孝 (内線2363)

係長 荻野 雅裕 (内線2613)

専門職 吉田 聡茂 (内線2613)

電話：03-5253-4111 (代表)

電話：03-6734-2613 (直通)

○ 中間評価の結果について

- ・「優れた取組状況であり，研究開発のねらいの達成が見込まれ，更なる発展が期待される」（８校）
〈学校名〉

京都府立桃山高等学校	京都市立堀川高等学校
学校法人立命館立命館高等学校	大阪府立生野高等学校
大阪府立豊中高等学校	兵庫県立尼崎小田高等学校
岡山県立倉敷天城高等学校	山口県立德山高等学校

- ・「これまでの努力を継続することによって，研究開発のねらいの達成が可能と判断される」（８校）
〈学校名〉

北海道旭川西高等学校	北海道札幌啓成高等学校
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	奈良女子大学附属中等教育学校
高松第一高等学校	愛媛県立松山南高等学校
長崎県立長崎西高等学校	大分県立大分舞鶴高等学校

- ・「これまでの努力を継続することによって，研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの，併せて取組改善の努力も求められる」（４校）

〈学校名〉

北海道室蘭栄高等学校	京都教育大学附属高等学校
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎	徳島県立脇町高等学校

- ・「研究開発のねらいを達成するには，助言等を考慮し，一層努力することが必要と判断される」（５校）
〈学校名〉

埼玉県立春日部高等学校	名古屋市立向陽高等学校
兵庫県立明石北高等学校	福岡県立小倉高等学校
福岡県立城南高等学校	

- ・「このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので，助言等に留意し，当初計画の変更等の対応が必要と判断される」（０校）

- ・「現在までの進捗状況等に鑑み，今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり，スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し，又は沿わないと思われるので，経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される」（０校）

○ 中間評価講評

1	北海道旭川西高等学校	<p>○ 成果と課題を整理し、必要な改善を着実に実行しており、評価できる。</p> <p>○ 学校の研究体制が確立しており、着実に取り組まれていることは評価できる。今後は、一部の教師の職務分担について改善していくことが望まれる。</p> <p>○ 探究基礎や課題探究などについての指導の在り方などの工夫は評価できるが、教師の指導力向上のための研修の更なる充実が望まれる。</p> <p>○ 地域連携によるフィールドワークは評価できるが、大学との接続の観点から、単位互換や入試などの可能性も含めた検討が望まれる。また、科学コンテストなどへの参加があまり多くないように見受けられるので、科学系部活動の活性化も望まれる。</p> <p>○ 12項目のルーブリックによる評価の分析が、主に生徒による評価を対象に実施されているように見受けられるため、教師による評価も併せて分析することが望まれる。</p>
2	北海道札幌啓成高等学校	<p>○ 学校長のリーダーシップの下、年度ごとに改善点を見だし、改善を行うサイクルが作られていることや、学校の組織体制も第1期の経験から構築されているように見受けられ、評価できる。</p> <p>○ 科学的アプローチをデザインする力の育成に向けた取組を実践的に課題研究に適用したことや課題研究が重視された教育内容となっていることは評価できる。今後は、これらの成果を授業改善に結び付けていくことが望まれる。</p> <p>○ 卒業生の協力も得て、組織的な課題研究を行っていることは評価できる。また、教師の指導力向上のための様々な研修を実施しており評価できる。</p> <p>○ インターネットを使った、オーストラリアの高校との連携など、国際性の育成に関する取組が充実しており評価できる。</p> <p>○ メタルーブリックを作成し、高大接続の改善も意識した取組が行われていることは評価できる。</p>
3	北海道室蘭栄高等学校	<p>○ 校務分掌にSSH推進部が位置付けられ、多くの教師がSSH事業に関わるように工夫していることは評価できる。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ○ レポート作成に伴う情報処理とデータ分析を伴う学習を関連付ける考えは評価できる。課題研究において、生徒が主体的に課題を見つけて取り組むことについては十分でないように見受けられるため改善が望まれる。 ○ テーマ設定、研究の進め方、追加実験などについて、適切なアドバイスをするには、専門的知識が重要であり、成功させるためのノウハウの蓄積が必要である。例えば、教師の多くが参加するワークショップ方式での討議などを実施して教師の意識の更なる向上を目指すことが考えられる。 ○ 生徒が大学で実験を体験したり、大学教員が学校に出向いて講演をすることが行われているが、これらに加え、今後は、例えば、生徒が大学生と交じって大学の講義を受講したり、大学教員が実施する高等学校と大学をつなぐような授業を希望する生徒が受講するなどの取組も考えられる。また、国際性の育成に関する取組については、アンケート結果から着実に実施できていると評価できるが、得られた成果をできるだけ多くの生徒に共有することが望まれる。 ○ 研究開発仮説・プログラムに基づいて評価・分析が行われているが、評価結果の分析については改善が望まれる。例えば、理数科目は得意になったが、逆に嫌いになったという結果の原因を探ることも考えられる。
4	埼玉県立春日部高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的、目標と実際の事業内容との関係が、十分明確になっておらず、教師間で共通認識を図り、明確にしていくことが必要である。 ○ 全校生徒を対象とした研究計画について、課題研究では、第1学年全生徒必修としていることから多くの教師が関わり、取り組んでいる点は評価できるが、第2、第3学年については履修者を増やすなどの改善や課題研究に取り組む時間を更に確保することが必要である。 ○ 課題研究を行うためのテキストを作成し、多くの教師が課題研究を指導できるよう整えていることは評価できる。 ○ 運営指導委員会で出された指摘を受け止め、改善に生かすことが必要である。 ○ 今後、研究計画の目的、目標を達成するためには、具体的な事業内容と達成目標を学校全体で明確にして、調査などにおいて成果の分

		析を行うことが望まれる。
5	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	<p>○ 校内外における様々な取組についてバランスよく取り組み、海外の連携校とのつながりも強化しており評価できる。また、生徒全員が理数系であるという強みを生かして、サイエンス教育推進委員会を設置するなど、全教職員でスーパーサイエンスハイスクールに取り組んでいることは評価できる。</p> <p>○ サイエンスリテラシーⅠ、Ⅱ、Ⅲを中心として、理数系の課題研究が積極的に実施され、サイエンスリテラシーを軸にカリキュラムマネジメントに取り組もうとしている点は評価できるが、サイエンスリテラシーなどで開発された教材をHPなどで積極的に普及していくことが望まれる。</p> <p>○ サイエンスリテラシーⅢでの研究活動などを条件に、横浜市立大学へ特別推薦入学をすることができる横浜市立大学チャレンジプログラムを実施するなど、高大接続の取組は大変評価できる。また、多くの生徒が海外へ行き、連携する高校や大学で英語による課題研究発表を行うなど、国際性を向上させる取組がなされていることは評価できる。</p> <p>○ 運営指導委員会からのグローバルリーダーの育成に関する具体策についての指摘を受け、海外の生徒を招待して国際フォーラムを開催することについて実現を図る取組を行っていることは評価できる。</p> <p>○ 様々な調査や評価が適切に行われていることは評価できるが、個々の取組のアンケートの他に、事業全体としての生徒や教師の変容を捉えることができるアンケートなどの実施が望まれる。</p>
6	名古屋市立向陽高等学校	<p>○ 理数の教師だけでなく、学校全体で組織的に事業に取り組めるよう体制を構築していくことが必要である。定期的かつ全学的で組織的な取組は実施されていないように見受けられるので、例えば、複数の教師が協力しながら、教材の開発、指導方法の改善、更には効果の評価方法の改善、教師間のノウハウの伝承などに取り組むことが考えられる。また、運営指導委員会からの十分な指摘を受ける機会を設けるなどの工夫をしていくことが望まれる。</p> <p>○ 生徒による主体的な課題設定や課題研究の時間数の確保に工夫があり評価できるが、生徒に研究手法を習得させるための取組については、一層の改善が望まれる。グローバル教養のような教科横断的な授業では、効果的な学習のための教材や授業構成に関する研究成果の普及が望まれる。また、探究活動が全ての教師の授業改善につながっ</p>

		<p>ているかの検証も望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際性を高める取組として、グローバルサイエンスキャンプ、海外での課題研究発表、海外の高校生を招いての交流など、様々な取組を実施していることは評価できる。また、サイエンスキャッスル in シンガポール、日本地学オリンピック、国際生物オリンピックなどへの積極的な参加や受賞は評価できる。一方で、一部の生徒による実施という範囲に留まっているように見受けられるので、成果を共有するだけでなく、他の生徒への波及効果を意識した取組の実施が望まれる。 ○ 高大連携授業の実施や通常の大学の講義に高校生が参加する取組だけでなく、例えば、推薦入試の検討など高大接続に関する研究の実施が望まれる。 ○ 生徒の相互評価や教師の評価により事業を検証していることは評価できるが、課題研究の客観的な評価法なども開発していくことが望まれる。
7	京都教育大学附属高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科の担当で構成されたSSH 推進会議を毎週開催し、情報の共有を積極的に図るなど、学校全体として事業の実施体制を整えていることは評価できる。また、運営指導委員会への委員の参加が思わしくないため、改善が望まれる。 ○ 計画していた、生徒による学びの評価の改善や、理科4領域を融合した新科目を基にした教育課程の再編の更なる推進が望まれる。また、生徒や教師の意識の変容に関する定量的なデータを取得し、改善につなげていくことが望まれる。 ○ 指導力向上のため、全ての教師が参加する教員研究会を計画的、定期的で開催していることは評価できる。また、課題研究において、理科、数学科だけでなく、文系科目も含めた多角的な視点から生徒が主体的にテーマ設定できるよう工夫していることは評価できるが、第3学年の課題研究をより充実するよう改善が望まれる。SSH 活動実績をデータベース化することで、AO 入試・推薦入試の出願資料作成について効率的に行う体制を整えつつあることも評価できる。 ○ 京都府立高校、京都市立高校、近隣の私立高校との間でスーパーサイエンスネットワークを構築し、スーパーサイエンスクラブの活動の一部を共同の課外活動として実施していること、ワークショップを日本と英国で毎年交互に実施していること、コンテストに参加、表彰されていることは評価できる。

		<p>○ スーパーサイエンスクラブ活動によって、主体的な学習の促進につながったという結果が見受けられ評価できるが、本研究計画で重視している科目間融合の取組の成果が出ていないように見受けられるので、改善が望まれる。また、今後、開発した教材や授業の工夫などをHPで公開するなどの普及の取組の充実が望まれる。</p>
8	京都府立桃山高等学校	<p>○ 普通科での取組や、グローバルサイエンス部の活性化、探究融合型の教科の開発、高大産連携などに取り組み、教育企画推進部を設置するなど、過去の取組の見直しを図りながら、学校長のリーダーシップの下、組織的に事業に取り組んでいることは大変評価できる。</p> <p>○ 外部人材の活用やチームティーチングの実施など、生徒の指導体制を充実させていることは評価できる。</p> <p>○ 課題研究においては、テーマ設定を重視し、教師が提示したテーマを生徒が活用する場合であっても、その中で生徒の自由な発想を意図的に重視していることは大変評価できる。また、全校での課題研究が適切に進められていることや、課題研究以外の多くの教科・科目においても、探究的な学びが意識されていると見受けられ、大変評価できる。</p> <p>○ 海外連携については、生徒を海外に派遣するだけでなく、授業交流を実施していることは評価できる。また、普通科の生徒の科学部への参加が大きく増え、活発に活動していることで学校全体の活性化にも寄与しているように見受けられ、評価できる。</p> <p>○ 多くのアンケートを行っていることは評価できるが、より客観的な分析・検証を行い、現状を定量的に把握した上での改善が望まれる。例えば、アンケート結果の分析等を踏まえ、普通科における自然科学に対する興味が高まるような仕組みも、事業実施において必要ではないかと考えられる。</p>
9	京都市立堀川高等学校	<p>○ 主体的な学びの一つである自主ゼミや、生徒の成長プロセスと教師の指導、支援過程を共有する手法の開発と実践など、特色のある取組は大変評価できる。また、研究部を設置し、全校で授業のねらいや内容を共有する担当者会議を組織するなど、運営体制を構築しており、評価できる。運営指導委員からの先輩のテーマ設定時の苦悩を生徒に共有させてはどうか、という示唆に対して、研究論文や活動録を図書館に整備し、より広く生徒に先行研究を紹介するなど改善に生かしており評価できる。</p> <p>○ 課題設定や課題解決、研究計画、振り返りのための教材を作成して</p>

		<p>おり、生徒一人一人の成長を見る手法を確立しており、大変評価できる。探究基礎や少人数によるゼミを生徒が編成し、教師に加え、大学院生のティーチングアシスタントが実験補助や生徒への指導・助言として加わり実施することで、生徒の主体性を伸ばすことを目指しており大変評価できるが、今後、連携の効果や課題なども明らかにしていくことが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 育成を目指す資質・能力として、答えが用意されていない問題を解決しようとする力や、漠然とした問題を解決可能な形に具現化する力を身につけられるような問題解決型学習を開発しており、大変評価できる。 ○ 高大接続の在り方の模索から具体的な接続の研究の更なる進展と科学系コンテストへの一層の参加が望まれる。 ○ 大学卒業後も企業と協力し、追跡評価を行い、変容を明らかにしようとしていることは評価できる。貴校において、SSH校以外の普通科高校においても、テーマ設定を工夫すれば科学技術人材の育成に寄与することが可能となるというプロセスを明らかにし、例えば、HPにおいて開発した教材を積極的に公開し、普及を図っていくことが望まれる。
10	学校法人立命館立命館高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際共同研究や海外校の教師との情報交流、JSSF (Japan Super Science Fair) など海外とのつながりや深まりを目的とした国際的な科学教育の推進に成果を上げており、大変評価できる。 ○ 全校規模での課題研究について、上級生や下級生、大学、卒業生などの縦のつながりや、理数系と人文系や国際系などの横のつながりの工夫を行い、生徒主体の課題研究の学びが設計されていることは大変評価できる。また、Math セミナーなどによって作成した教材を公開するなど普及の取組が望まれる。 ○ 課題研究室を設けるなど生徒による継続的な実験・観察ができる環境整備を行っていることは大変評価できるが、課題研究そのものに充てる時間数の増加やテーマ設定時期、場所などの工夫が望まれる。 ○ 大学教員との学部懇談会が設定され、大学とも緊密に連携をとる体制を整え、新しい企画などの提案や要望を出し合う仕組みができていることは大変評価できる。 ○ 科学系コンテストへの一層の参加や卒業生の追跡調査の充実が望まれる。また、自己評価票で校内体制の強化、ルーブリック評価の研究や海外との共同課題研究の推進、企業訪問の取組の促進などを

		課題項目として上げており、今後の改善が望まれる。
11	大阪教育大学附属高等学校 天王寺校舎	<p>○ 3年間にわたって課題研究を受講することが可能であり、そのこと自体は評価されるものの、課題としていた、課題研究(応用)と課題研究(発展)の選択者の増加については改善が望まれる。</p> <p>○ 教師の指導力向上を図る取組の組織的な充実が望まれる。指導する際に着目する観点などの共有や、分野発表会への参加を通して教師の意識の共有化を図っているように見受けられるが、そのことによる指導力向上の効果を明らかにするなどの分析していくことが望まれる。</p> <p>○ 附属高等学校として、大学との連携のみならず、高大接続に関する研究の充実が望まれる。また、科学系部活動への生徒の参加数が伸び悩んでいる理由などを明らかにしていくことや成果普及の観点から、学校で開発した教材をHPなどで公開していくことが望まれる。</p> <p>○ 生徒の興味・関心に応じて、数学、物理、化学、生物、地学、情報の国際オリンピックから、必ず1科目の受検を促し、成果も出ていることは大変評価できる。</p> <p>○ サイエンスネットワークでは、全国のSSH指定校に対して、研究開発の成果を普及していることや、生徒研究発表会のポスター発表をルーブリックに基づいて全教師で評価する取組を実施していることは評価できる。今後は、教師の意識の変容を定量的なデータによって測定し、変容の客観化を図ることも望まれる。</p>
12	大阪府立生野高等学校	<p>○ 計画提出時に課題としていた①グローバルスキルや研究倫理の育成、②科学的キャリア教育プログラムの充実、③科学的リテラシーやグローバルマインドセットの育成などの各項目は着実に進捗していると見受けられ、大変評価できる。また、教師のSSH事業に対する理解・関心も確実に高まっており評価できる。</p> <p>○ 大学院生などの探究アドバイザーを活用し、課題研究に関する探究科目を充実させており大変評価できる。今後、継続した支援が受けられる体制を構築するための工夫が望まれる。併せて、指導力向上の観点から、教師に対しての研修を一層充実させていくことが望まれる。</p> <p>○ イングリッシュカフェ、成果発表会などに英語を使うことの奨励、理科を英語で指導することの試みがなされるなど、国際性を高める工夫が各所で見られ大変評価できる。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 反転授業の教材は他校でも活用できる可能性があり、HP で公開するなど、より一層の普及が望まれる。 ○ 事業全体の評価について、グローバルリーダー育成評価テストを用いて評価する工夫がなされており評価できる。今後は、より詳細な分析が望まれる。
13	大阪府立豊中高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 充実した研究体制の下で、中高大一貫プログラム、国際性育成プログラムなど特色ある取組を意欲的に実施しており大変評価できる。運営指導委員会の運営においては、課題研究についてだけでなく、事業全体の指導助言が得られるよう工夫することが望まれる。 ○ 教育課程が全体として「SS 課題研究基礎」、「SS 課題研究Ⅰ」、「SS 課題研究Ⅱ」や選択科目「SS 課題研究Ⅲ」、「SS 課題発表特論」という課題研究の科目を中心に編成されており、考える力などの育成に向かうものになっていることは大変評価できる。また、SSH の活動を通して、教師自身の指導力が向上していると見受けられ評価できる。 ○ 課題研究及び課題研究に関連した科目については、研究内容をデータベース化することを通して、指導体制及び指導方法の面で充実しており大変評価できる。 ○ 卒業生のティーチングアシスタント活動を大学での単位の認定されるように計画している豊中オナーリーダーズの試みは、高大接続への新たな試みとして大変評価できる。 ○ 成果の分析・評価は丁寧に行われ、課題の改善も適切に取り組みされており評価できる。ルーブリックについては今後、更なる改善と活用が望まれる。
14	兵庫県立尼崎小田高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ サイエンスリサーチ科に加え、普通科、国際探求科など全ての学科・類型で課題研究を実施し、各学科・類型の相互交流なども活発に行われていることは大変評価できる。 ○ 課題研究（探究Ⅰ～Ⅲ）については、3年間を見通した計画が立てられており、探究Ⅰ・Ⅱの接続や、探究Ⅲでの英語による発表が振り返りに効果的に働いていること、「持続可能な社会構築の人材育成」では、地域課題を取り上げた環境学習が展開できていることは評価できる。重点枠で育成しようとする「コミュニケーション力」「マネジメント力」については、基礎枠での育成が望まれる。 ○ アクティブラーニングを教科の中でどう生かすかなど具体的なテ

		<p>ーマで教員研修を組織的に実施し、パフォーマンス課題のワークショップなど、多様な取組を実践しており大変評価できる。</p> <p>○ 各大学・研究機関以外に国土交通省、海上保安庁などテーマに沿った多様な機関と連携を図り、生徒の自発的な探究活動を支援する環境整備に向けた活発な交流を行っており評価できる。また、全生徒がインターンシップを体験するなど、キャリア教育が充実していることは評価できる。</p> <p>○ 生徒の自己評価、ルーブリックによる評価、卒業生の追跡調査など、多様な評価方法の研究・実践が行われていることは評価できる。今後は、ポートフォリオを併用するなど、更なる深化・拡充が望まれる。</p>
15	兵庫県立明石北高等学校	<p>○ 理数系の教育内容の工夫改善、科学と英語の統合的カリキュラム開発など、特色ある研究開発を進めている。学校設定科目「科学・技術・社会」と「課題研究」の連携や全校生徒対象の課題研究の展開により、全校でアクティブラーニングを推進した授業作りに取り組んでいることも評価できる。教材開発については更なる充実が望まれる。</p> <p>○ 課題研究については、見直しを行い改善されていることは評価できるが、その指導体制については、自然科学科、普通科ともに一部の教師だけでなく、組織的に実施する体制を構築していくことが望まれる。特に普通科では、教師一人が多くの班を担当することが前提とされているため、改善が必要である。</p> <p>○ 教師の指導力向上のための取組について、芸術科、地理歴史科に留まらず、全教科を巻き込んだ校内研修などの充実が望まれる。</p> <p>○ 大学や研究機関などとの連携、地域や他のSSH校との連携、国際性の育成について、海外研修と科学英語などの学習機会が充実しており、評価できる。科学系部活動については、化学部、生物部以外にも拡充していくことが望まれる。</p> <p>○ 生徒の変容の要因を探る語彙調査については意欲的だが、それが事業全体の分析や評価につながっていないように見受けられる。今後取り組もうとしているルーブリックの作成や思考力テストの作成との関係性を明確化することが望まれる。また、語彙調査の結果について、課題研究の指導の工夫・改善など教育実践に結び付けることや、学校全体での共通理解を深めることも望まれる。</p>
16	奈良女子大学附属中等教育	<p>○ 今期の主題である共創力の育成については、理数を融合した授業</p>

	<p>学校</p>	<p>などで議論を促し、全学年において課題研究を実施し、外部講師を招いてワークショップを実施するなど、全体的に計画は進捗していると見受けられ評価できる。</p> <p>○ 6年間を一貫して課題研究を重視した教育課程が編成されており評価できるが、生徒をどのように育てていくのかをより明確にし、6年間を見据えたカリキュラムの構築が望まれる。</p> <p>○ 大学の附属学校の利点を生かし、外部人材を活用した授業や、キャリア教育、進路指導体制が整っていることは評価できる。理数を融合した授業を年間指導計画に位置付け、現象と数学の往還をしながら課題解決型の授業に取り組んでいることなどは評価できる。</p> <p>○ 科学部の活動は活発に行われており、評価できる。また、国際交流も継続的に行われているが、参加人数が少ないように見受けられるので、海外研修に参加した生徒の成果を他の生徒に展開していくことが望まれる。</p> <p>○ 計画には「多様な他者を組織して、課題の解決や、新たな価値・概念を創り出すために、協議し、主体的に判断・主張・駆動することのできる能力を育てる」旨が記載されているが、これを測定する調査や、生徒の変容についての結果が見受けられず、改善が望まれる。</p>
17	<p>岡山県立倉敷天城高等学校</p>	<p>○ 全校体制の下、組織的に事業を推進していることや、計画時に課題としていた各項目について、着実に取り組まれていることは大変評価できる。また、どのような生徒を育てたいかが明確になっており、それに向けた一つ一つの取組が有機的につながっており大変評価できる。</p> <p>○ 文系教科の中で科学技術と人間社会との関係を深く考えさせる時間を設けていること、教材を教師が利用しやすいようにデータベース化していること、科学者を育成する場として、異学年指導も取り入れるなどしている天城塾の取組は、大変評価できる。また、英語でのコミュニケーションを図る様々な取組を実施しており、科学英語の実践を継続的に実施していることや、米国への海外短期研修を実施し、現地で課題研究についての発表を英語で行っていることなども評価できる。</p> <p>○ 併設中学校を含め、組織的に課題研究が取り組まれていることや、理数系教育に重点を置いた効果的な教科・科目が開設されているだけでなく、保健体育科、芸術科、地理歴史科、公民科などでも主体的・協働的に学ぶ授業が実施されており、大変評価できる。また、生徒用の課題研究の教材である理数科課題研究ガイドブックや、教師用指導</p>

		<p>資料である理数科課題研究ガイドブック指導資料など特色ある教材を開発し、普及の観点からHPに公開されていることは評価できる。</p> <p>○ パフォーマンステストであるロードマップテストを開発し、資質・能力がどの程度育成されているかの研究や、テストの結果と「クリティカル・シンキング（批判的思考力）」との関係性を明らかにする研究を進めていることなどは大変評価できる。</p> <p>○ 科学部の活動の拡大、重視している課題研究と評価以外の取組の完成度を更に上げていくことが望まれる。</p>
18	山口県立徳山高等学校	<p>○ 学校長のリーダーシップの下、組織的に事業を推進しており、研究計画の目的に掲げられた、生徒の「モチベーションの向上」「主体的な研究力の向上」「コミュニケーションの拡大」の3つの柱の達成に向けて、研究計画が高いレベルで着実に進捗していることは大変評価できる。また、運営指導委員会や、企業などを含め、外部からの指摘を有効に活用していることは評価できる。</p> <p>○ 科学系部活動を通して、課題研究における生徒の課題発見力や研究力が、生徒間に相互に広がっているように見受けられ、それらを教師が意図的にかつ間接的にサポートしており評価できる。また、通常の理科の授業で実験を意識的に多く取り入れ、教育内容の改善と生徒の変容に繋がっていることは評価できる。</p> <p>○ 教師の指導力向上のための様々な取組が行われていることは評価できる。今後は、課題研究などに対する教師の指導力向上のため、理数に重点を置いた教員研修のより一層の充実が望まれる。</p> <p>○ グループワークやペアワークなど、生徒の意欲や興味を引き出せるように配慮した取組が行われており評価できる。</p> <p>○ 科学系部活動の活性化が図られており、成果を上げていることは大変評価できる。また、成果の分析とそれに基づく改善、保護者・地域・他の小中高等学校への普及の取組が積極的に行われていることは評価できるが、更に充実していくことが望まれる。</p>
19	徳島県立協町高等学校	<p>○ 計画提出時に課題としていた、①課題研究の改善、②生徒の状況に適合したアクティブラーニング的な指導法、評価の改善、③大学とのインターネットを活用した連携、④高校生との交流を中心とした国際性を高める取組などを着実に実施しており、評価できる。また、グループワーク型の教員研修などの取組が組織的に行われていることは評価できる。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 美馬市活性化に関する探究活動では、美馬市との連携でデータの探し方や見方、新しいアイデアの創出に関するワークショップなどの取組を実施していることや、外部講師による協働的問題解決学習に関する研修会や授業を実施していることは評価できる。今後は他校への普及の観点から、研究授業のシステム化を図るなど学校としての組織的な取組を実施し、HPなどで開発した教材を積極的に公開し普及していくことが望まれる。 ○ 全教科・科目を通じて、体系的に生徒の科学的な思考力を養い、問題解決力の育成に繋がる教材を研究・開発することを目標としているが、これに対する結果が低調であり、改善していくことが必要である。 ○ 近隣地域に大学などの連携機関がない中で、テレビ会議などで大学と交流していることは評価できるが、これらの取組の効果がどの程度あったのか明らかにしていくことが望まれる。また、科学系部活動をより活性化していくことが望まれる。国際性を更に伸ばすためには、海外研修に参加していない生徒への波及効果のある取組が望まれる。 ○ 生徒の意欲を喚起するためのポイント制の導入は特色があり評価できる。実験ノートを使って生徒の変容を明らかにしようとしていることは評価できるが、生徒の気づきまでの活用に残まっているように見受けられ、改善が望まれる。
20	高松第一高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教師をグループに分け、チームによる授業づくりや教材開発を行うなど、教師の指導力向上や授業改善に取り組む体制を構築していることは評価できる。 ○ 運営指導委員会への教師の参加や週1回のSSH実施検討会の開催など、組織的に取り組んでいるように見受けられ評価できる。また、運営指導委員会からの助言を受けて、ワークショップを計画するなど、改善が試みられていることは評価できる。 ○ 主対象の普通科理科特別コースに加えて、主対象ではない理系クラスで理数系の課題研究が意欲的に行われていることや、実験ノートの記述内容を評価し、丁寧な指導が実施されていることは評価できるが、主対象ではない理系クラスの理科課題研究の取組については、教師主導となっていると見受けられるため、より生徒の主体性を育む観点から改善・充実が望まれる。また、課題研究の質をより高めるような教師による指導の工夫が望まれる。 ○ 広島大学や香川大学との連携が実施されていること、英国連携校

		<p>での研修に向けて、語学力の強化に積極的に努めていることは評価できる。また、科学系コンテストに積極的に参加していることや、アクティブラーニング授業実践レポートなどの工夫された特色ある教材を開発していることは評価できる。</p> <p>○ 既存のテストや独自で開発したルーブリックなどを用いて、成果や課題の分析が行われていることは評価できる。また、評価法や研修システムなど、いくつかの取組は先進的なものであると見受けられ、普及の観点から、HPなどで他校へ積極的に発信することが望まれる。</p>
21	愛媛県立松山南高等学校	<p>○ 計画提出時に課題としていた、①課題研究の更なる改善(チャレンジ・リサーチ)、②国際性の育成に関わる事業の改善、③評価の改善に取り組んでいる。また、普通科への拡大についても着実な成果を上げつつあり、評価できる。</p> <p>○ 課題研究については、テーマ選びのプロセスに時間を比較的長くかけていること、全教師が課題研究を担当していること、メンター制の導入などの仕組みを設けていることなどは評価できる。普通科全生徒による課題研究の実施においては、これまでのSSH事業の成果と経験の蓄積を十分生かせるような工夫や更なる体制整備が望まれる。また、取組全体を通じて、より生徒の主体性を生かしたものとすることが望まれる。</p> <p>○ 理数科における科学系部活動の取組は意欲的であり評価できる。</p> <p>○ 国際性の育成については、できるだけ多くの生徒に国際的な感覚を持たせるための研修の機会を与え、メンターを利用した専門的な研修の機会を生徒に与えるなど意欲的な取組を行っていることは評価できる。</p> <p>○ 教師全体による評価結果の分析やアンケート結果の分析など、評価の取組の充実が望まれる。</p>
22	福岡県立小倉高等学校	<p>○ 学校全体で組織的に取り組む体制が整っていること、運営指導委員会も適切に機能していることは評価できる。</p> <p>○ 思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力、課題解決能力を向上させるといった目的に対して、具体的評価規準の設定と実態把握が十分ではないように見受けられる。</p> <p>○ 課題研究について、課題研究Ⅰ(第1学年)、課題研究Ⅱ(第2学年)、総合的な学習の時間(第3学年)の系統性が乏しいように見受けられる。それぞれのねらいを明確にした上で、指導計画の再構築が</p>

		<p>望まれる。</p> <p>○ 多様な指導方法を導入し、教員研修を充実させつつ、全教師が関わることで、普段の授業づくりの様々な工夫と教科横断的かつ多様なテーマで創造的な課題研究が意欲的に行われていることは大変評価できる。また、課題研究について、調べ学習にとどまることなく、より質を高めるため、課題研究とキャリア教育との関係について、効果検証していくことが望まれる。</p> <p>○ 外部連携、国際性の育成、部活動などについては、意欲的に多様な取組をしており、評価できる。今後は、それらの成果と課題の分析を更に進めることが望まれる。また、客観的な評価方法についてはルーブリックを作成中とのことから、意識の変容の把握に留まっているように見受けられる。特に、課題研究で育成を目指す資質・能力については、評価項目や評価規準の設定や評価方法の工夫とともに、その結果に基づいた指導方法の改善、指導計画の見直しが望まれる。</p>
23	福岡県立城南高等学校	<p>○ 学校長のリーダーシップの下、計画提出時に課題としていた、普通科での課題研究の展開や理数以外の教師の参加による体制を強化していることは評価できる。引き続き、将来国際的に活躍する科学技術人材の育成がSSH事業の趣旨であることを踏まえ、研究計画を一層推進することが望まれる。また、本研究計画で重視している協働的な態度の育成が低下している原因を分析し、改善していくことが必要である。</p> <p>○ 「SS 環境科学」「SS 地球科学」「SS 情報統計」では、科学技術に関する基礎的な知識やデータの分析技能、効果的な発表手法などを早期に身に付ける内容となっており、その効果検証が望まれる。</p> <p>○ 「理数ゼミⅠ」の課題研究では、教師と大学教員が、事前・事後の指導の進め方や個々の生徒の課題研究の進捗状況などについて確認しながらティームティーチングにより実施しているが、生徒がより主体的にテーマ設定するための工夫が望まれる。</p> <p>○ 教師の指導力向上のための取組として、校内研修を意欲的に実施していることは評価できる。更に教師の指導力向上や意欲の喚起を図るために、例えば、校外研修への参加や校外公開授業への参加なども考えられる。また、英語の授業でディベートを積極的に取り入れているが、SSH課題研究との連携を図ることが望まれる。</p> <p>○ HPについては、授業改善がどのように実践されているのか、課題研究をどのように推進しているのかなど、生徒の実態がわかるようなHPに改善を図ることが望まれる。また、継続的なアンケート調査を</p>

		<p>実施して主体的・協働的な課題の解決に関する意識の変容を追跡していることは評価できるが、分析が十分ではないように見受けられるので、多角的に分析していくことが考えられる。</p>
24	長崎県立長崎西高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ SSH 委員会を組織して、研究全体に理数以外の教師が関わり、全教師で、課題研究の指導に取り組んでいることは評価できる。 ○ 課題研究において、生徒の主体的なテーマ設定を促す指導などに取り組んでいること、文系生徒に対しても課題研究を課し、SSH 事業で開発した課題研究の指導法を基に文理共通の指導法の確立を図っていることなどは評価できる。 ○ 科学探究クラブの成果を課題研究の手引きとしてまとめていることや、文系生徒へ課題研究の成果を普及させていることは評価できる。課題研究の手引きなどの開発された教材を HP で公開することなどにより普及していくことが望まれる。 ○ 卒業生の追跡調査を実施し、SSH 事業と研究者となる卒業生の関係を分析する試みを始めている点は評価できる。 ○ 学校設定科目「科学探究」と課外活動としての科学探究クラブを連携させた指導法を研究開発していることは評価できる。また、科学部に参加する生徒が多く、各種科学コンクールなどにおいて成果が出ており、大変評価できる。
25	大分県立大分舞鶴高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題研究の全校指導體制の構築や大分県全体の高等学校の取組である大分スーパーサイエンスコンソーシアムを組織するなど、大分県の中核校の役割を担い着実に推進していることは評価できる。全生徒対象の課題研究の実施などによる教師の意識の変容は認められるが、今後、課題研究の客観的な評価法の開発や実践の積み重ねについての分析が望まれる。 ○ 運営指導委員会の指摘を受けて、SSH 事業の成果を県全体の教職員研修で取り入れていることは、SSH の成果普及の観点からも評価できる。開発教材を HP に公開するなど、より積極的に普及していくことが望まれる。 ○ 「SSH 探究」を第 1 学年 2 単位、第 2 学年 2 単位、第 3 学年 1 単位設定し、第 1 学年の「SSH 科学」1 単位、第 1、第 2 学年の「SSH 国際情報」各 1 単位と連動させて、課題研究の時間数を確保するなどの改善を図り、成果を上げていることは大変評価できる。 ○ 科学部については、部員が大幅に増加し、活動も活発になり質的

		<p>にも向上している。また、そのことが課題研究にもよい影響を与えているように見受けられ評価できる。今後は、科学系コンテストなどへの積極的な参加が望まれる。</p> <p>○ 生徒が積極的に思考する、思考する文化を形成することをテーマとして、授業改善に PDCA サイクルを導入し、学校全体で取り組んでいることは評価できる。論理的思考力を評価テストで測定しているが、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価など、より適切な評価の開発が望まれる。</p>
--	--	---